

■ジャガタラお春(マダム=シモンズ) 混血女性キリシタン。海外追放され、ジャガタラでオランダ人と結婚し、裕福な生活。

じゃがたらおはる

寛永寺創建・1625 = 　　ポルトガル船の航海士務めるイタリア人ニコラス=マリノと日本女性(洗礼名マリア)との間に生まれる。

姉はマグダレナ万。

徳川秀忠没・1632 = 7歳：

鎖国令　・・1634 = **9歳**：この頃、父が死去。母は姉を連れて弟の家に身を寄せ、お春は小柳利右衛門の養女となり、その縁で、オランダ人と結婚していた日本女性に養育されるが、

鎖国令　・・1639 = 14歳：長崎筑後町乙女久保十右衛門が長崎奉行所へ差出した文書によると、***オランダ商館の閉鎖直前に、オランダ人・イギリス人らの姻戚連喬40数名、母・姉とともに、オランダ船で平戸から追放され、**追放後、何年か過ぎたころ手紙のやりとりが許され、年に1度立ち寄るオランダ船に故郷への思いを綴った手紙を託している。

寛永飢饉始・1640 = 15歳：　　**バタヴィアに到着。まもなく姉は長崎生れの村上武右衛門と結婚するが、**

家光鎖国完成1641 = 16歳：

寛永飢饉終・1643 = **18歳**：　　**姉は病死。**

・・・・・1646 = 21歳：***平戸生れで同い年のシモン=シモンセン(オランダ東インド会社事務員補)と結婚して、ジェロニマ・マリナと改名、**

・・・・・1647 = 22歳：母は、この年まで存命していることが確実であるが、

4男3女を生んだが、うち3人は早世。

徳川家光没・1651 = 26歳：

承応事件・1652 = **27歳**：

母も死去して、夫と子供だけが唯一の身内となり、

明暦の大火・1657 = 32歳：

清帝国始・・1661 = **36歳**：

殉死禁止・・1663 = 38歳：　　**本国オランダ転勤を命じられた夫は、バタヴィア残留を熱望して認められ、**

諸宗寺院法度1665 = 40歳：オランダの慣例に従い、公証人の前で、夫婦で遺言書を作成。

酒井忠清大老1666 = 41歳：

・・・・・1670 = **45歳**：この頃、　**夫は会社を辞め、孤児管財人の自由商人として、日本人とオランダ人のパイプ役を務めて、大成功して行くも、**

東南海運確立1672 = 47歳：***急死。多額の遺産を受け継ぎ、**

・・・・・1674 = 49歳：さらに、義兄武右衛門からも財産を遺贈されることとなり、以後、多数の奴隷を使い、商売や投資にも精を出し、

越後騒動・・1679 = **54歳**：

徳川綱吉將軍1680 = 55歳：

堀田正俊暗殺1684 = 59歳：

日本永代蔵・1688 = **63歳**：この年、オランダの東インド会社の社員としてバタヴィアに到着したケンベルと出会い、日本に興味を抱いたケンベルが訪日を志すようになって、

湯島聖堂・・1690 = 65歳：この年には、肉親宛の手紙を、ケンベル託し、日本に届けられる。

晩年に次女のマリアと孫の3人きりになるが、

世間胸算用・1692 = 67歳：公証人を自宅に招いて**遺言書を作成、奴隷たちに自由を与え、その将来までも手当し、**

生類憐令頂点1695 = 70歳：

・・・・・1697 = **72歳**：***遺言書をさらに追加補正して、裕福な生涯を終えた。**